

武佐の よいとこ

天秤棒かついで
西へ東へ
近江商人

今宵は
武佐宿で一泊



③ 武作寺（武佐寺）長光寺、広済寺

推古天皇の時代、聖徳太子が武川綱に命じて造営した寺といわれています。武が作った寺なので武作寺「武佐寺」といい、聖徳太子が作った阿弥陀像を東金堂（広済寺）（594年創建）に、観音像を西金堂（長光寺）（611年創建）に安置したといわれています。



④ 惟喬親王の足跡（加茂神社、照福寺）

御所内町には、惟喬親王が勧請・建立したといわれる加茂神社と照福寺があります。惟喬親王は、文德天皇の第一皇子でしたが繼承争いに敗れ、出家されました。都を逃れた惟喬親王は、琵琶湖の東の浜辺に上陸し、各地に木工技術を伝えたとして、木地師の祖ともいわれています。



⑥ 泡子地蔵

その昔、旅の僧（弘法大師説あり）が茶店に立ち寄り一休みしたところ、茶店の娘がその僧に恋をしました。僧が立ち去った後、残ったお茶を飲んだ娘は、懷妊し男の子を産みました。3年経ったある日、旅の僧がやってきて、男の子に息を吹きかけると、男の子は泡となって消えたといわれています。



⑨ 野田町のコスモス畑

始まりは、道路からのポイ捨てを無くすためでした。今では毎年10月に、約200万本の色とりどりのコスモスが開花し、訪れた人々の目を楽しませています。季節によっては、菜種や向日葵の花畠も見られます。



⑧ 伊庭貞剛生家跡

佐々木一族の伊庭氏の末裔で、住友財閥の第2代総理事となつた伊庭貞剛の生家があった場所です。伊庭貞剛は日本で始めて環境問題を取り組んだ実業家でした。北側には西宿城跡があり、伊庭氏の一族の居城だったのではないかと考えられています。さらに、北西の田んぼの中に伊庭家の墓地があります。

⑦ 瓶割城跡

元亀元年（1570年）、柴田勝家が佐々木六角承禎の軍に包囲された時、城内は食料や水が欠乏して、これ以上の戦いは不可能となりました。勝家は、城兵に水瓶の水を飲ませた後、その瓶を割って兵の士気を鼓舞して戦い、大勝したことに由来し、瓶割城といわれています。



⑩ 南野小学校跡地

南野小学校は、旧八幡街道沿いにあった小学校です。当時学べなかつた地域の子どもたちの為に民家を借りたのが始まりで、明治28年（1895年）から昭和29年（1954年）に武佐小学校に合併されるまで60年続いた小学校の跡地です。現在は、昭和15年（1940年）に建てられた二宮金次郎（尊徳）の石像が残っています。

武佐・老齋

跡



案内図



⑪ 延喜式の奥石神社と老蘇の森(国指定文化財)

老蘇の森は、平安時代から和歌などに詠まれた歌所として知られ、室町時代の太田道灌や江戸時代の本居宣長の歌碑も建てられています。国指定の史跡で、往時は現在の数倍の大森林でした。

老蘇の森の中にある奥石神社は、延喜式の神名帳に記され延長5年(927年)以前にさかのぼる歴史があります。天正9年(1581年)に織田信長の命で再建されたとされる本社殿は桧茅葺をもつ国指定の重要文化財の建物で、その他多くの指定文化財があります。安産の神様と言われ、今も安産祈願やお宮参りなど多くの参拝があります。

⑬ 西国三十三所霊場

西国33所の32番目の札所で、今も多く尊崇を集め、参拝者が訪れています。寺伝によると聖徳太子がこの地に来臨された時、紫雲たなびく山を見られ「これぞ靈山なり」とおぼしめ、太子自ら千手

観音を刻み、堂塔を建立されたのが縁起とされています。兵乱で山麓に移った堂塔も、織田信長の時代には再び山上の地に営まれることとなりました。

⑯ 日本の100名城・中世

標高432.5mの織山の山頂から南山麓にかけて多数の郭が広がる大城郭で、多くの石垣が残る「中世の5大山城」の一つに数えられています。16世紀中頃に近江の守護大名・佐々木六角氏の居城として整備されました。石垣を多用した山城の館では連歌の宴を催すなど、単に戦時の詰所だけでなく風雅な場であったとされ、当時の山城としては他に例を見ない特徴をもっています。

⑯ 伝統文化と行事『勧請縄』

近江の守護大名・佐々木六角氏の時代に発達した自治組織「惣村(そうそん)」の影響は、現代の暮らしの中にも強く残されています。年の初めには、集落内に邪惡なものが入り込まないようにと『勧請縄』が掲げられます。老蘇隣に色濃く残された伝統・文化行事で、毎年1月8日の西老蘇の魔耶羅講(マヤラコ)が有名です。

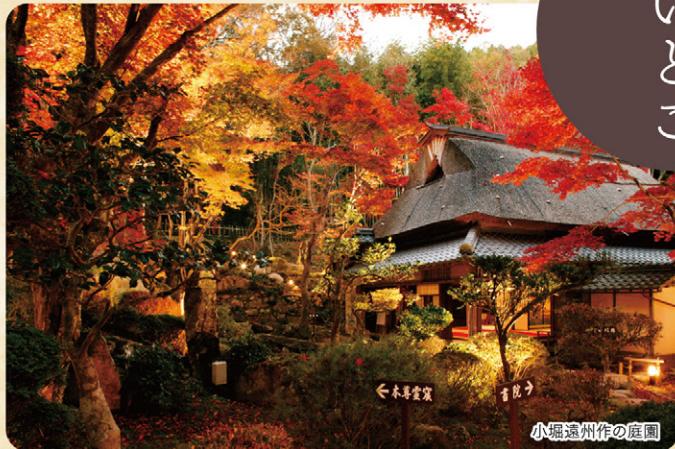


老蘇の よいとこ

あづま路の
思い出にせん郭公
老蘇の杜の
夜半のひとこえ

12 石の寺『教林坊』と小堀遠州作の庭園

聖徳太子により推古 13 年（605 年）に開かれたと伝わり、寺名の『教林』は太子が境内の林の中で教えを説かれたことに由来しています。「太子の説法岩」と伝えられる大きな岩と太子自作の石仏『赤川觀音』を祀る靈届があります。また、書院に面する庭は、小堀遠州作といわれる桃山時代を代表する池泉回遊式の名勝庭園です。秋の紅葉の時期には境内全域がライトアップされます。



『観音正寺』



14 東光寺と建部伝内（市指定文化財）

もともと清水鼻（現・東近江市五個荘町）にあった佐々木六角氏ゆかりの寺院で、佐々木六角氏滅亡後、現在の東光寺が寺号と本尊を譲り受けたと伝えられています。本堂に阿弥陀如来像（平安時代後期の作）が安置され、また境内には佐々木六角氏・豊臣秀吉に仕えた右筆（ゆうひつ）・建部伝内の像が安置された伝内堂があります。



15 山頂の巨石に刻まれた摩崖仏『十三仏』

飛鳥時代、聖徳太子がこの山の南裏に瓦屋寺（かわやじ）を建てられた時、岩戸山に金色の光を発する不思議な岩を見つけ、太子自ら爪で 13 体の仏を刻まれたといわれています。今も信仰を集め近県からの参拝も多く、毎年 4 月 24 日に近い日曜日に千日会が営まれ開帳されます。



世の五大山城『観音寺城跡』



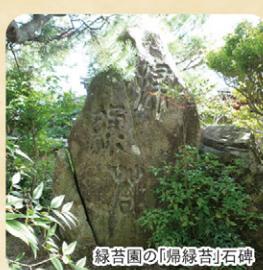
17 史上初の楽市『石寺樂市』

織田信長が活躍した時代に先行する天文 18 年（1549 年）、近江の守護大名・佐々木六角氏の奉公人が発行した文章に「紙商売の事、石寺新市の義、楽市たる条、是非に及ばず」とする史料が残っており、この史料から現在の東老蘇の地にわが国最初の楽市があったとされています。



19 杉原庭園『緑苔園』

庭師として有名な長浜の勝元宋益の作で、号を「鈍穴（どんけつ）」と称したため、鈍穴の庭と呼ばれ親しまれています。回遊式枯山水で江戸時代末期に作られ、14 代将軍徳川家茂が休息する時に増築したとする風呂と便所も現存しています。園内の立石に刻まれた「帰緑苔」から「緑苔園」の由来となっています。普段は非公開となっています。



20 地元の詩人 井上多喜三郎氏

詩人・多喜三郎の詩碑が、母校である老蘇小学校の一隅、中山道に面して建てられています。近江の地における詩碑 1 号で、堀口大学、草野一郎平など多くの著名人が参加した除幕式が行われました。50 有余年の年月を数えた詩碑『私は話したい』には、老蘇に生まれ、老蘇に育ち、老蘇でうたった詩人・多喜三郎が、今も純朴に語りかけているような気がします。



詩碑『私は話したい』

よきとこ



集落入口の勧請縄